

# KIT NEWS

国立大学法人 京都工芸繊維大学 広報誌  
Kyoto Institute of Technology

Vol. 33 2013.7



## 巻頭特集

千年の都・京都の蓄積を  
活かした大学づくりを

古山 正雄 学長  
門川 大作 京都市長

## 教育NOW

デザイン学部門  
野口 企由 教授

## 研究室探訪

デザイン経営工学部門  
勝本 雅和 准教授

情報工学部門  
山本 景子 助教

## 活躍する卒業生

マツイカガク株式会社  
桃川 大毅 様

三菱電機株式会社  
高井 善弘 様

## 美術工芸資料館収蔵品紹介

村野藤吾の都市への眼差し

## がんばる工織大生

## Topics





## 巻頭 特集

# 千年の都・京都の蓄積を活かした大学づくりを

本学では、文部科学省の大学改革実行プランを受け、大学のミッション再定義作業を行い、地域連携や社会連携についても、より強化することを確認いたしました。今回、本学古山学長が、京都市と本学の関係、今後の連携の在り方などについて、この度、経営協議会委員に就任された門川大作京都市長にお話を伺いました。

## 古山 正雄 学長 × 門川 大作 京都市長

産学公が連携して、様々なイノベーションを興してきました。京都に工芸繊維大学が生まれたというのも、決して偶然ではありません。京都の産業界の要請も勿論あったでしょうし、様々な時代の京都に対する要請があり、そうした要請に京都が応えるなかで、必然的に貴学は京都の地に生まれたのだと考えます。そういう意味では、大学の街、学生の街、文化芸術都市、ものづくり都市といった京都の都市としての特性、それらを育んできた京都の歴史と伝統、千年を超え脈々と受け継がれている街づくり、それを支える京都の地域力、こういう要素と密接不可分に連携しているのが、京都工芸繊維大学の百年の歴史だと思います。

**学長** 本学が、京都と歴史を共有しているというお話、大変嬉しく思います。

**市長** 歴史だけではなく、未来の目標も共有しています。工芸、繊維という名のつく大学は全国的に見ても非常に珍しいですが、先ほど学長からお話のあった京都市産業技術研究所は、その前身は、正に西陣や友禅とつながってきた繊維技術研究所ですし、これにもうひとつの工業技術研究所が統合され、産技研となりました。産技研は、京都市の研究機関であると同時に、貴学の研究機能的な役割も果たしていると思います。先ほどお話にあったように人的な面でも、研究内容においても深い関わりがありますので、この関係を今後より強化していきたいと思っています。今後、産技研につきましては独立行政法人化する予定です。そのうえで、京都のもうひとつの誇りでありますASTEM(京都高度技術研究所)とより連携させていこうと思っています。さらには京都府の研究機関とも連携していきたいと思っています。こうした変化のなかで、ぜひ貴学ともより深まった連携をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

### 京都の蓄積を活かし、時代の要請に応える大学に

**学長** 文化、歴史、観光といった側面で見ると、今非常に面白いと思うのは、伊藤若冲をテーマとした錦市場の活性化や、琳派などを通じた街づくりなどです。おそらく他の都市ではできない話だろうと思います。若冲、琳派といった固有名詞が凄いいいだけではなく、芸術を中心とした街づくりや地域の活性化というのは、非常にオリジナリティがあると思います。

**市長** 若冲は八百屋さんの息子に生まれているというのだから面白いでしょ。錦市場の危機を救ったりもしています。

**学長** 若冲は、単に画家というだけではなく、非常に大きな存在ですね。

**市長** 先日、細見美術館のお話を伺ったのですが、公立の美術館は税金で運営しますが、私立の美術館は、普通なら赤字です。しかし細見美術館は黒字だそうです。飲食とグッズ販売で採算をとってられるそうです。「美術館という形で社会貢献して、皆さんに喜んでいただき、京都の価値を高めながら、採算が合います」と仰っていました。

**学長** たいしたものですね。

**市長** 貴学の美術工芸資料館も大化けする可能性がありますよ。昔の貴重なものだけで構成するのではなく、教員や学生さんなどの貴学の様々な人的資源を活かして、そうした資源と琳派400年、若冲300年といった京都の様々な歴史や伝統をつないだら面白いと思います。



**学長** それは面白いですね。若冲到しろ、琳派にしろ、国内だけではなく、世界に持って行ったら、マーケットはかなり広がるのではないかと思います。そのあたりは、本学も貢献できるよ、努めるべきだと思っています。今後とも、さらに取り組んでいきたいと思っています。

**市長** 「科学と芸術の融合」ということを貴学では言っていますが、これは素晴らしい。科学と芸術をつなげるものとして「ものづくり」があると思います。それをしっかりと実践してられる貴学は、時代の要請に対応できる大学ではないかと思っています。しかも貴学は京都の街にある。京都には、文化的、芸術的、あるいはものづくりの蓄積があります。その蓄積に学びながら、創造していくというのは素晴らしいことだと思います。

現在、アベノミクスの成長戦略として、クールジャパンとか、グリーンイノベーション、地域力再生の街づくりとか、コンパクトシティとか、スマートシティなどのキーワードが語られていますが、これは全部、貴学の研究テーマではないですか。貴学が果たす役割は、ますます大きくなっていると言えるでしょう。

**学長** 市長にそう言ってもらえると非常に嬉しいです。

### 京都の街と歴史・未来を共有する 京都工芸繊維大学

**学長** このたび、門川市長におかれましては、本学の経営協議会への参加をご快諾いただきまして、誠にありがとうございます。また入学宣誓式、学位記授与式の際には、非常に素晴らしい祝電をお送りいただき、ありがとうございます。そのなかでも市長が仰っていますように、京都は学生の街、大学の街です。

**市長** こちらこそありがとうございます。大学の街、学生さんの街、京都において、貴学が果たしてきた役割と功績に対して、京都市を代表して感謝申し上げます。

**学長** まず研究という観点から本学と京都市との関係を考えてみると、京都市に奉職する卒業生・修了生も多い。とりわけ京都市産業技術研究所(産技研)には、かなりの数の卒業生・修了生がお世話になっています。

**市長** 大学の街、学生さんの街というのは、京都の特性の大きな要素ですが、同時に京都は、ものづくり都市、あるいは、文化芸術都市、さらにイノベーションを興してきた街、といった特性を有しています。最近では、産学公連携という言葉がありますが、そうした言葉ができる以前から、京都では

## 世界からの留学生を京都に

**学長** 最近、本学の卒業生でモンゴルの鉱業大臣になった方がおられまして、私もお祝いに行きました。その方と話をしますと、やはり京都での生活が印象的だったようです。大学での技術の習得はもとより、クラブ活動で比叡山を毎日走ったこととか、松ヶ崎の下宿で、大家のお爺さん、お婆さんから、礼儀作法のことや、熱い風呂に入って大きな声を出すと健康にいいと教えてもらったことなど、とてもよく覚えているのです。そういう話を聞きますと、京都という街全体が、学生に対する、ある種の教育的な効果を持っている気がいたします。学生の街ということの実効的な意味が実際にあると感じます。

**市長** 嬉しいですね。以前、ベトナムのフエ大学を訪問したことがあります。帰国後、今度はフエ市の市長が来られた際にお迎えの行事をいたしました。その際の総司会を務めてくれたベトナムからの留学生が、貴学の博士課程在籍の方でした。話したら、京都のことが大好きな留学生で、なかなか深みのある魅力的な方でした。

**学長** 本学は、ベトナムからの留学生も多いです。海外の学生に対して、京都は自信を持って留学することを薦めることのできる街ですね。安心、安全ですし、京都のかなりの部分は、歩いて行けるというのも、とてもよい点だろうと思います。京都市におかれましては、国際交流は非常に盛んですよね。

**市長** 最近、私もケルン、フライブルク、フィレンツェ、そしてイスタンブールを10日間で回ってきました。ケルンでは、ケルン大学と京都大学、京都外国語大学が学術協定を締結しました。それからイスタンブールとはパートナーシティ提携をしたのですが、同志社大学が中心となり、京都大学と他の大学も一緒になって、留学生フェアを実施しました。250人ほどの参加者があり、とても好評でした。

**学長** 本学でもケルン大学から視察に来られて、一緒にやろうということになりましたし、イスタンブールにある建築系のミマールシナン大学とも提携いたしました。

**市長** 京都には、大学コンソーシアムもありますが、どういう組織で行うかは別として、留学生を京都に呼び込むために、私たちは、アジアにどんどん出ていかないといけないと思っています。トルコもそうですし、ミャンマーやベトナムなど、きわめて親日的であり、日本への留学を希望する人も多です。しかし、少し気をつけないと、みんな欧米に行って

しまう可能性があります。それらの国では、英語教育に力を入れているので、欧米の方が留学しやすいわけです。日本語という言語のバリアーは、確かに大きいですが、アジアの国々は、とても親日的ですし、距離的にも近いことがありますので、素晴らしい未来の担い手である学生さんが、学びに来やすい仕組みづくりをしっかりと京都市としても行うことが必要であると改めて実感しました。また具体的な相談もさせていただきたいと思います。

**学長** そうですね。本学でも留学生用の寮を整備していますが、留学生に聞きますと、やはり住むところは、大きなポイントのようですね。

## 千年の時をかけて熟成された人間力、地域力

**市長** 現在、関西学院大学図書館長の奥野卓司教授は、貴学のご出身ですが、「京都は千年を超えるものづくりの街である。ものがたりづくりの街である。」と言っています。

**学長** なるほど、ものがたりづくり、ですね。

**市長** 千年前に紫式部が源氏物語を書き、そして茶道も華道も、京料理も、さらに能狂言も香道も、これは精神文化ですね。同時に、少し奥野教授の言うことを私なりに深化させて言えば、繊維も織物、染物、あるいはあらゆる印刷も、京焼、清水焼も、仏壇仏具、神具も、お酒も含めてものづくりの歴史です。山口安次郎さんという能装束を織り続けて105歳で亡くなられた方と、私もお話をさせていただいたのですが、西陣織は世界最高の織物だと、世界を回っていて実

感すると言われるんです。それはなぜか?能装束を織り続けることが西陣の使命だからだと言うのです。わずかな動きで人々を感動させる能というのは、演目と装束と面がぴたっと合ったときに感動を与えます。その能装束を織り続ける責務があるから、西陣織はどんどん進化するのだと言うわけです。これは105歳のお爺さんが言った言葉です。こんな街は他にありません。

**学長** それは凄い言葉ですね。

**市長** 茶道の場合も、茶道があって、千家十職がありますね。精神文化、ものがたりづくりが千年を超えて連綿とつながっていて、それに対応した物質文化、ものづくりがある、それが相互に刺激しあいながら、高まっていった。現在では先端産業としてイノベーションを興しています。精神文化と物質文化が見事に刺激を与えあう、その深い根底には、京都の自然があり、京都の宗教があると思います。そこに何よりも人が育つ土壌があります。

**学長** 精神文化と物質文化が、相携えて発展するというのは面白いですね。

**市長** 先日、ケルンからイスタンブールまで、錦市場の方などが同行してくださったのですが、その方々の話を聞いて、現地の総領事や市長さんらがとても驚いて、感動していました。言われることに深みがあるわけです。寿司屋の大将や、錦の漬物屋の大将が、文化を、芸術を、街づくりを語られるわけです。これが京都です。人のなかに京都の蓄積が全部入りこんでいる。地域力、人間力みたいなものを改めて実感しました。

**学長** なるほど。

**市長** 京都で、素晴らしい感性が育ち、匠の技が連綿と受け継がれ、時代の変化のなかで進化し、その結果として、今、京都は大学の街になっているのです。産学公連携の街になっています。そうやって千年の時をかけて、この盆地で、街づくりが行われているわけです。

## 京都の街全体から学び、突破力を身につける

**学長** 先ほど本学のベトナム人留学生についてお誉めの言葉をいただきましたが、市長からご覧になられて、本学の学生のイメージはいかがでしょう。

**市長** 非常に真面目で創造的だと思います。ただ誉めるばかりでもいけませんので、あえて言わせていただくと、もう一皮むけたら、もう少し深掘りしたら、さらに人材としての力が生きてくるのではないかと思います。最近の学生さんは真面目でしょ。

**学長** はい、真面目です。よく勉強もします。しかし少し物足りないかもしれません。

**市長** 真面目でよく勉強するのはよいことですが、それプラス、胆力、突破力とも言うべき力が加わると面白いですね。ぜひ京都の歴史や伝統から学び、さらには創造力、胆力、突破力でそれを揺さぶっていただきたい。市役所もおおいに揺さぶっていただいて、そのなかから、生まれてくるものに期待します。それから、貴学の学生さんにも、もっと大学コンソーシアムのようなものを活用して欲しいと思います。大学コンソーシアムは、50の大学で組織して、550の単位互換科目を用意しています。そのなかで大変な人気があるのが、花園大学の「禅と日本文化」です。そこを覗けば、留学生が半分で、しかも理系の学生が意外と多い。面白いですよ。貴学で学ぶのも素晴らしい。貴学をホームベースとしながら、京都の千年を超える歴史、それは、芸術文化の歴史でもあり、ものづくりの歴史でもあり、創造的な人間を育ててきた歴史でもありますが、その歴史から学んでいただきたい。京都はいろんな地域力、人間力が彷彿としている街ですから、京都の街全体をキャンパスとしていただきたい。京都の街全体から学んだことと、貴学で学ぶことがうまく混ざることによって、皆さんが携わる学問も、芸術も、ものづくりもどんどん進化すると思います。



# 室内意匠計画

## インテリアデザインを本質から学ぶ



大学院工学科学研究科 デザイン学部門 野口企由 教授

黒板は、教育の場の活性化を助けるエレメントですが、その形態や配置などを考えねばなりません。場とは特定の目的・意味をもった環境ですから、それを予測して、予め空間をつくっておくわけです。場をつくりやすいように空間を設計するのが、インテリアデザインの本質です。」

場の創造の具体例として、野口先生は、茶室や数寄屋建築などの日本独自の文化をしばしば採り上げます。「茶室のにじり口や飛び石は、どういう風に茶室の中に人間を巻き込んでいくかという仕掛けです。のにじり口はわざと狭くされ、人間にあえて身体的な窮屈さを与えて、次の空間を最も中心的な場として感じさせる仕掛けです。完璧に場の作り方を予測した空間づくりをしたのが、茶匠たちです。私は茶室と場をテーマとした博士論文を20代のときに留学先のイギリスで書きましたが、東西の場の概念の比較がとても勉強になりました。茶室のようなインテリアは、エンパティな空間としてデザインされています。人間や様々なエレメントが同化することで場に変貌していきます。茶事は勿論ですが、月あかりが差すとか、虫の音が聞こえるとか、雨が降ってくるとか、そうした自然現象をも愛でる場とするため、わざとエンパティにしてあるのです。これを見抜くことで、場に必要なエレメントを厳選する眼が非常にできてくるわけです。」



したら、早く立ち去って欲しいという考えでつくられたインテリアもあります。そうした場合、最初から頻繁にリニューアルを前提としてデザインされることになります。多くのファーストフード型の飲食店舗などは、その典型と言えるでしょう。しかし、それは本来、環境倫理、環境維持の視点で言えば正しくありません。頻繁なリモデルは、地球環境に負荷をかけることになります。商業デザインにおいても、奇抜な造形に逸る気持ちをおさえ、環境負荷を考慮して、リニューアルのスパンを長くできるデザインを行うべきです。デザインという名のもとに、不必要なモノや環境を多産してはならないのです。経済学の見直しが必要です。」

このように、インテリアデザイナーとしての心得について、色々な角度から実践的に学べるのがこの授業の特色です。「私は、80%しか設計してはいけないと言っています。顧客が自分のセンスを発揮できるような心遣いがインテリアデザイナーには必要です。また、常に生活者の立場で設計するようにも伝えています。奇抜だけれど、掃除しにくいインテリアでは可愛がってもらえませんか。さらに、適材適所を考えた素材についての知識も重要です。この授業では、テストはせず、レポートを4~5回提出してもらいます。授業で触れたインテリアの実例を自分で見つけ、分析してまとめたりします。受講生は150人程度いますが、全て添削して返却しています。」

最後に、本学の卒業生でもある野口先生に、後輩へのメッセージをいただきました。「人生万事塞翁が馬ですね。私自身、大学の教授になるなんて思ってもいませんでした。就職しましたが、勉強し直そうと、思いきって留学し、転々としました。それでもやはり、ピンときたときに行動するのが大事だと思います。躊躇しないでやってみる、やらないよりいいです。たとえ駄目でもいい、何回でもやり直したらいいのです。」

### □ 場をつくりやすいように空間を設計する

「インテリアは、建築から、絵画の飾り方、テーブル・セッティングまで含みます。非常に幅広いわけですが、『室内意匠計画』ではその様々な技法を集約して取扱います。」と野口企由教授は言います。「その際、根底にあるインテリア哲学を伝えることを心がけています。これがないと、テクニックばかり追いかけてしまうことになりかねません。」

野口先生は、「場」と「空間」の違いを語ります。「空間(スペース)は人間が外にいて、からっぽで不安定な状態です。人間が中に入ってきて活性化し、場(プレイス)となります。具体例で言えば、教室という空間があります。ここに学生と教員が入ってくると、そこは教育の場となります。教室の机や

### □ インテリアデザイナーの心得を学ぶ

野口先生は、「住居のインテリアは、外観の形態から先に考える傾向が強くなりがちですが、形態の奇抜さなどよりも、親密性を重視し、長くつき合え、愛着をもってメンテナンスできる「場」の創造を第一にすべきです。」と語ります。「インテリアデザインの実践では、人間の感性に内部性を実感させることが大切です。例えば、和風ホテルのデザインでは、畳をエレメントとして、ホテルのなかを全部素足で歩かされるようにしました。そうすることで真に内部にいるという親密感がわいてくるのではないですか? 視覚的な面だけではなく、触覚的にも、顧客が入ってきたときに感動し、だんだんその環境の一部に溶け込んでいくような仕掛けをつくっていくわけです。一方、社会には、そこにきた人に親密性を感じさせるのではなく、一過性の刺激を与え、それに満足



## 基礎的なデータをもとに、常識を問い直す。

で学び、経験したことから成り立ってきたものですから、それをひっくり返すのは簡単ではありません。常識が現実とは異なっていることを、人に納得させる有力な方法の一つがデータによる検証です。しかし、データによる検証は簡単なことではありません。例えば、『イケメンはモテる』と言うのは常識とっていいと思いますが、これをデータに基づいて検証しようとするれば、『イケメン』、『モテる』という概念を何らかの形で測定しなければなりません。多くの人が納得する形でこれらを測定することが困難であることは容易に想像がつくと思います。」

現在の日本の企業の大きな課題として、勝本先生は「技術力はあるが、それがなかなかイノベーションに結びつかないこと」を挙げます。「よい製品をつくるためには、消費者のニーズの適切な把握、それを効果的に実現する工学的な技術、更に、製品価値をどう魅力的に消費者に伝えるかというデザインが欠かせません。この認識が、本学のデザイン経営工学課程(専攻)の基本理念になっています。」これまで日本企業が誇ってきた技術力についても懸念が生じていると勝本先生は指摘します。「特許データを用いて分析すると、日本経済が強かった80年代、日本が強い技術領域は、世界的に技術進歩が盛んな領域と一致していました。しかし、経済が停滞した90年代以降になると、日本が強い領域は必ずしも技術進歩が盛んな領域とは一致しなくなっています。つまり活発な技術領域への資源配分が、企業内部で上手く為されていない可能性が示唆されます。この問題は、大学の在り方とも関係があるでしょう。イノベーションに対する大学の貢献への期待が高まってきています。しかし液晶の発見から製品化までに80余年がかかったように、科学と産業が結びつくまでには長い時間がかかる場合も多く、大学に実益ばかりを要求するのは本末転倒になりかねません。また産官学連携を促進するために1990年に日本版パイドール法ができて以降、産学連携に基づく特許件数は増えています。しかし、その平均的な質については、むしろ低下しています。アメリカでも同様の傾向を示したとの報告がありま

民間研究機関分布図(業種別:全国)



民間研究機関分布図(業種別:首都圏)



す。大学にどのような役割を期待するかについても、データに基づいて冷静な議論を進めていくことが重要でしょう。」

### 基礎的なデータの収集に取り組む

「最近では、地方の経済的自立に強い関心を持っています。いわゆる知識経済化、サービス経済化など産業構造が変化する中で、東京への一極集中が進む一方、地方では過疎化が進み、経済的に自立できない地方が増えています。知的生産活動をどれだけ行えるかに地方の経済的自立がかかっています。このような中で、特定の場所への依存を解消する情報通信技術への期待が語られることもあります。」しかし実際に調査してみると、その逆の現象がみられると勝本先生は言います。「データを見ると、ITの活用により、場所への依存が解消された結果、むしろ東京一極集中が促進されています。例えば、情報システムの構築は、ビジネスが集中している東京で行った方が効率が良いため、どうしても東京で行うことになってしまいます。その結果、成長産業である情報通信産業は東京に集中することになってしまっています。」

また、地方の活性化のために科学技術等の研究開発に力を入れるべきとの見解がありますが、これについても勝本

先生はその実効性に疑問を呈します。「地方で研究開発などの知的生産活動を活性化することができれば、地方の経済的自立に大いに役立つことでしょう。しかしそれを実現するには、そこで行われる研究開発が効率的でなければなりません。企業は効率性の高い場所で研究開発をしようとするからです。従って、どのような場所で研究開発を行うのが効率的かということを知る必要があります。ところが、日本においては民間企業がどこで研究開発活動を行っているかを示す基礎的データすら不足しています。そこで、今私が取り組んでいるのは特許情報に着目したデータの構築です。特許には発明者の住所が記載されているため、これを手がかりに研究開発活動の場所を特定することを試んでいます。ただ企業所属の発明者の場合、本社の住所が記載されることも多いので、他のデータベースとの照合などによりデータの正確性を高めていかねばなりません。」

研究室の求める人材について尋ねたところ、「常識に疑問を持つような人です。」と勝本先生は言います。「世間ではこう言われているけど、本当かと疑うことが重要です。常識を疑い、データに基づき判断することが必要です。私の研究の中心となるデータをつくる作業は、基礎的で地味な作業ですが、そこをしっかりとやらないと、疑うべき常識が常識のまま通用してしまいます。」データに基づく実証性を重んじる勝本先生の研究は、今後、日本の産業の進むべき方向について、様々な示唆を与えてゆくでしょう。



大学院工芸科学研究科  
デザイン経営工学部門  
勝本 雅和准教授

### 日本の産業の課題を克服するために

「技術経済(テクノエコノミクス)を専攻し、いわゆるイノベーションについて実証分析を行っています。具体的には、科学技術や研究開発の、社会や経済への影響を計量的に測定するにはどうすればよいかを研究しています。」と勝本雅和准教授は語ります。「イノベーションとは新しい製品やサービスを創造し、それを普及させることですが、新しいことを生み出すには、古いこと、いわゆる「常識」を打ち破ることが必要になります。常識は、多くの人が共通してこれま

## ユーザの気持ちを伝えるインタフェースの開発

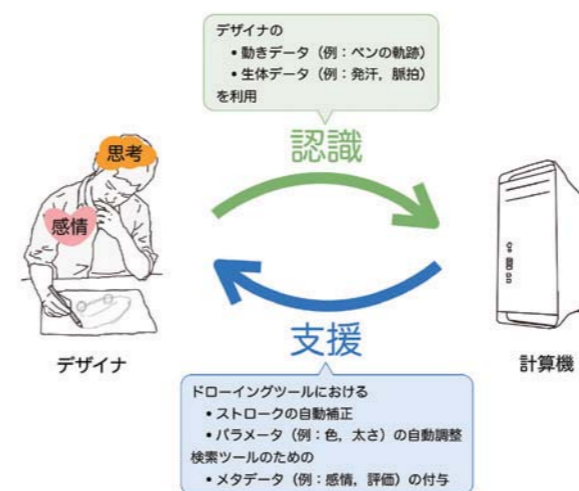


大学院工芸科学研究科  
情報工学部門  
山本 景子 助教

機能です。使い手の気持ちにあったサポートを実現することに関心が移ってきています。私は、デザイナーを支援するコンピュータ・インタフェースを開発しています。デザイナーがイメージやアイデアをアウトプットする際の支援を目指しています。当初、山本先生は、道具と手の関係に着目したデザイン支援インタフェースの開発に取り組んでいました。「道具の握り方には、こういうものを作りたいというデザイナーの思いが現れています。通常、道具の機能を変えるためには、ユーザがボタンを押すなどして意識的にモードを切り替える必要がありますが、道具の握り方を変えるだけで、道具の方がユーザにあったモードに自動的に切り替わる仕組みができないか研究していました。」

### 創作活動時の感情のラベル付け

山本先生の研究はさらに深化しています。「握り方に現れる以前の感情の変化を捉えることができないか、考えています。例えば、デザイナーが線を描く際に、よいと思って描いているのか、駄目だなと思って描いているのかという違いを、コンピュータが判別できないかと考えています。」創作活動時のユーザの感情をコンピュータが理解できると、例えば、情報の検索においても可能性が広がると山本先生は言います。「日記について、例えば『彼氏』というキーワードで検索し、彼氏についての日記だけを読むことはできます。」



しかし、もし書き手の感情がわかり、それに基づきラベル付けができると、『彼氏』かつ『楽しかった』というような検索ができることとなります。」

創作活動時の感情のラベル付けに関して、現在、山本先生はタイピングの際の感情の分類を研究しています。「英語圏での成功例に則って実験しているのですが、日本語ですと変換キーを押すプロセスが入ったりしますし、そもそも日本人には感情をあらわにしない傾向があります。そういう日本語や日本人の特徴があるので、有効な分類指標が異なってくるなど研究の余地があります。」また、線を描く際のパターンの分類に関する研究も行っています。「絵を描くときには、自分独自の線を描けるようになりたいですね。自分独自の描き方を体得するには、うまくいったときの自分のデータを参考にしながら練習すればいいんです。うまくいったパターンをコンピュータで判別できれば、そのデータを使って学習できます。現在、とれたデータをどのぐらい分類できるかを研究しています。何回も被験者に円を描いてもらって、描くたびに、よい、わるいと判断してもらいます。漫画家などが使うペンタブレットからのデータだけでやってみようということで、ペン先の2次元の位置と、筆圧、タイムスタンプの3つの指標で分類しています。現在のところ、精度は7割弱で

す。ある程度実用可能な精度といえますが、システム構築はこれからです。自分がそのとき描いている線と自分のうまくいったときの線をうまく表示させると、使えるシステムになるのではないかと考えています。」

### 見落としがちな不便に敏感になることの重要性

「一緒にいると楽しいという人がいるじゃないですか。同様に、コンピュータと一緒にいて楽しいと思える機械にしたいと思っています。最近、3Dプリンタも安価になって、自分で自分の欲しいものをつくるパーソナル・ファブリケーションが盛んになっていますので、一般の人がアイデアをアウトプットするのを支援するインタフェースを開発したいですね。あるいは外科手術などで、本来の手術に集中するために、機器を操作する作業は極力、排除すべきでしょう。そういう場面でも研究成果を応用できたらいいと思います。」

山本先生は「インタフェースの研究は発想が重要」と強調します。「世の中にはないものを生み出し、現状よりも一歩進めなければなりません。私たちは、手元にあるもので満足する傾向があるように思います。しかし、世の中にはまだまだ不便がたくさんあると思うのです。不便に敏感になることを意識しながら、生活することが大切ですね。」



### インタフェース開発の新たなフェイズ

山本景子助教は、コンピュータと人のコミュニケーションを司るインタフェースを研究しています。「インタフェースは、元来、機械を安全、安心に使う目的で開発・改善されてきた経緯がありますが、最近では、安全性を備えていることは当たり前とされ、インタフェース開発は新たなフェイズに入りました。」と山本先生は言います。「現在、インタフェースに求められているのは、もっと繊細な、使い手の気持ちなどを理解してコンピュータに伝えるといった

# 活躍する卒業生 Graduates who are active



マツイカガク株式会社  
桃川 大毅 様

2010年3月 大学院工芸科学研究科 生体分子工学専攻修了

## 諦めずに向上心を持って努力する

大学入学を機に何か新しいことをしたいという思いから、京都三大学合同交響楽団に入り、ファゴットという低音の木管楽器を始めました。高校までは音楽とは縁遠い人間でしたので、入団当初は本当に異世界に入ったという感じでした。わからないことだらけで、いつまでたっても思いどおりにいかず投げ出したくなる時もありましたが、先輩や同期の支えもあり、なんとか乗り越えました。こうした経験から、困難なことに直面しても簡単には諦めず、常に向上心を持ち続けて努力すればなんとかなる、という考え方が身に付きました。

このことは、研究においてもとても役立ちました。私は生体分子工学部門の村上章教授の研究室で、山吉麻子助教のもと、癌などの原因となるRNAとタンパク質の複合体の相互作用を崩し、複合体の機能を阻害するペプチドを結合させた人工核酸の開発を行っていました。ペプチド合成の手順の確立には苦労しましたが、試行錯誤しながら目的物を合成できたときは嬉しかったです。研究室では徹夜で実験することも多く、博士前期課程2回生の頃は、年末年始も関係なく実験していました。研究室での実験生活は大変でしたが、愉快的同期にも恵まれ、とても充実して楽しかったです。また、大学は自然に囲まれていながらも交通の

便がよく、しっかりと学ぶことができる環境が整っていました。

## 自分の開発した製品が使われる喜び

進学か就職かで非常に悩みましたが、自分の作った物を実際に使ってもらえる企業での開発に魅力を感じ、就職を選択しました。村上教授からのご紹介もあり、インキメーカーであるマツイカガク株式会社に入社しました。現在、私は紫外線を照射することにより硬化するインキの新規製品の開発を行っています。大学時代の研究テーマとは全くかけ離れた業種であるため、一から勉強しなければならないこともたくさんありましたが、大学の授業で学んだ高分子科学の知識や、研究室で学んだ実験の進め方などは活かすことができています。

自分が開発に関わった製品が出来上がり、得意先に実際に使って頂いて、良い評価を頂いた時は嬉しかったです。現在は新規製品の開発を任せて頂いているので、自分が主となって開発した製品を上市させることが当面の目標です。

後輩の皆さんには、これだけは誰にも負けないくらい一生懸命になって取り組んだ、という事を1つ持って欲しいと思います。そうして身につけた自分を向上させるための努力をする姿勢や方法は、仕事でも必ず活かすことが出来ます。



三菱電機株式会社  
高井 善弘 様

2008年3月 大学院工芸科学研究科 先端ファイブロ科学専攻修了

## 学会での発表や外国での研究活動がよい思い出

家電製品から航空宇宙関係まで幅広く使用される高分子材料について学びたいという思いから、繊維学部の高分子学科に進学しました。3回生時の実験の際、先端ファイブロ科学部門の濱田泰以教授のゼミに参加し、濱田先生の研究に対する姿勢や人柄にひかれ、4回生からの研究室配属で濱田ゼミを希望しました。

研究室の特色として、学会への参加が非常に多く、学部4回生から博士前期課程修了までの3年間で10回以上も学会に参加し、口頭発表を行いました。自分の考えを人に伝える難しさを実感できたとともに、プレゼンテーションスキルの向上にも繋がったと思います。発表練習の場では、濱田先生、仲井先生(現岐阜大学)をはじめ、OBの方々にもご指導頂き、感謝しています。

学生時代の一番の思い出は、博士前期課程1回生の時にアメリカのミシガン州立大学で1か月、カナダのライオンソン大学で2か月間、研究に従事したこと。アメリカでは、生分解性プラスチックの研究に従事し、成形品の作製や成形品の力学的・熱的特性評価を行いました。カナダでは、光ファイバーセンサーに関する研究に従事し、成形品中に光ファイバーセンサーを埋め込み、成形品変形時のひずみ挙動評価を行いました。英語が堪能というわけではなかったので苦労しましたが、異文化に触れ、視野が広がったことは本当に良かったと思います。

## 製品の信頼性を左右する樹脂部品を開発

同じ研究室の博士後期課程所属の社会人学生に、三菱電機先端技術総合研究所所属の方が2名おられ、三菱電機株

式会社に興味を持ちました。同社は家電製品から航空宇宙産業まで幅広い事業を展開しており、多くの製品に触れることで技術を磨くことができると感じ、志望しました。現在は、三菱電機の先端技術総合研究所に在籍し、当社製品内の樹脂部品に関する研究・開発に取り組んでいます。樹脂部品はそれ自体が製品のキーパーツとなることは少ないですが、製品の信頼性を左右する重要な部品です。製品によっては過酷な環境に曝されることもあり、耐久性の確保が必要不可欠です。現在、シミュレーションを使った設計段階の問題点抽出や評価技術開発、部品試作後の環境加速による信頼性評価などを行っています。電機メーカーである当社には樹脂材料に詳しい人間はあまりいないので、大学で学んだ高分子材料に関する知識は私の武器になっています。自分が開発に携わった製品が市場に出たときには、とてもやりがいを感じます。将来は、自分の子供に自慢できるような製品を作りたいですね。

京都工芸繊維大学は緑が多く、ウッドデッキもあり、とても雰囲気の良い大学です。学生の活気もありますので、充実した学生生活を送れると思います。また、後輩の皆さんには、コミュニケーション能力の大切さをお伝えしたいと思います。会社での仕事は一人で解決できるほど甘いものではなく、困難に直面した時、すぐ相談できる人脈を築いていることが重要です。学生時代から幅広い年齢層の人々と接し、良好な関係を構築できるスキルを身につけると良いと思います。そうして磨いたコミュニケーション能力は、就職活動でも活かせると思います。



## 村野藤吾の都市への眼差し

本学美術工芸資料館に収蔵されている建築家・村野藤吾（1891～1984年）の設計図面を紹介する展覧会が始まったのは、2000年11月のことである。その当初から、建築の設計原図という資料の特殊性もあって、設計の実務経験を有する学外の関係者にも協力を仰ぎ、学内の建築史を専門とする教員を交えて、「村野藤吾の設計研究会」が組織され、それが展覧会の企画母体となってきた。毎年、地道な図面の整理作業を進める中からテーマを設定し、現存する建物については調査を行い、資料を発掘するなど、展覧会をひとつのきっかけとして、村野藤吾の建築思想の全体像に迫るべく、現在に至るまで活動を続けている。

その間、「村野藤吾・晩年の境地」をテーマとした2007年の第9回展までは、おおむね時代を追う経年的な形で、村野の仕事を順次紹介してきた。また、翌年の2008年の第10回展

では、「アンビルト・ムラノ」というテーマを設定し、さまざまな理由から図面は描かれたものの実現しなかった建築ばかり18件を取り上げた。さらに、別の建築展の企画を挟んで、昨年の2012年に開催した第11回展では、新たに発見された未公開資料を元に、歴史の空白を埋めるべく、「新出資料に見る村野藤吾の世界」をテーマとして掲げた。

そして、第12回となる今年の展覧会では、これまでの経年的な方法を離れて、より深く村野藤吾の建築思想の特質を検証して紹介することを目指して、「都市を形づくる村野藤吾のファサードデザイン」というテーマを掲げることにしたのである。このテーマの設定には、次のような意図が託されている。

すなわち、村野藤吾の建築家としての仕事を振り返るとき、その主軸をなすものの一つに、都市の街角の表情を形づくる建物として、オフィスビルや銀行、商業ビルや百貨店、劇場や映画館といった一連の作品群があることに気がつくられる。それらの建物は、その街のランドマーク的な存在として長い時間にわたって人々に親しまれてきたものばかりである。おそらく、村野ほど、仮に「都市建築」とでも呼べる作品群を生涯にわたって持続的に作り続けた建築家は日本にはいないだろう。そう考えると、とかく村野作品として注目されがちな美術館や教会、ホテルといった記念碑的で芸術性の高い個性的な建築以上に、これらの都市建築にこそ、彼の建築思想を理解する貴重な手がかりが読み取れるのではないか。また、ほかの建築家たちとは大きく異なる村野独自のデザインが施された建物は、独特な雰囲気

を周囲の街並みに醸し

出してきたことにも注目する必要がある。その特徴は、繊細な素材の選択とディテールの処理から生み出された建物の外観立面（＝ファサード）の陰影に富む表情の豊かさ、形態操作とでもいえる建物の塊（＝ヴォリューム）の組合せ方の妙味に見て取ることができる。こうして、現在では、いずれの建物も、それとは気づきにくいものの、高い芸術性をもつかけがえない都市の建築遺産となっている。

けれども、大変残念なことに、近年の激しい都市再開発の影響もあって、私たちの目の前には、こうした高い価値をもつ村野の建築が次々と取り壊しの危機を迎えている現実がある。すでに、初期の代表作として有名だったそごう大阪本店（1933年）や、戦後の大作の一つである新ダイビル（1958・

63年）などが取り壊されて姿を消し、大阪新歌舞伎座（1958年）も、現在閉鎖されたままの状態になっている。

こうした中、あらためて村野が都市に何をもちたのか、その独自のファサードデザインと形態操作にどのような意図が込められていたのか、を確認することは、建築が都市に何をできるのか、良好な都市景観はどのようにすれば守り育てることが可能なのか、など、建築と都市の明日を考える上での貴重な手がかりを与えてくれるに違いない。そこで、今回の展覧会では、独立後のデビュー作である森五商店東京支店（1931年）から、戦後の代表作の日本生命日比谷ビル（1963年）を経て、村野の晩年83歳の大作である日本興業銀行本店（1974年）に至るまで、さらには、彼自身のアトリエであった2か所の事務所など、村野藤吾が都市の中で試みた大小21件の建築を取り上げて、端正で格調の高いデザインに込められた建築思想のありかを今一度確かめてみたいと思ったのである。

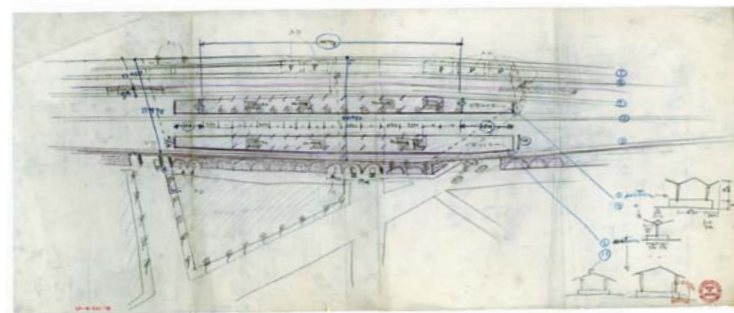
また、例年どおり、取り上げた建築の中で、大阪、岡山、東京に現存する17件については、本学教員の市川靖史（デザイン科学専攻大学院助教）が新規の撮り下ろしを行い、その魅力を大判の写真で伝えると共に、建物の現状記録の意味も込めている。さらに、造形工学課程の3回生の学部学生11名には、設計原図を元に展示用の精巧な紙製の模型11基を制作してもらうことによって、建築展をより分かりやすいものにする試みも継続した。それは、同時に、建築の設計を志す学生たちにとって、村野藤吾の建築を通して建築設計の神髄を体感する貴重な機会にもなっている。

さて、ここに紹介するのは、東京の有楽町駅前に多目的ホールと百貨店の複合建築として建てられた読売会館・そごう東京店（現・ビックカメラ有楽町店、1957年）の図面である。但し、建物の設計図そのものではない。いずれも、この建物の建設敷地の条件を設計のスタッフが調査した際の参考図面と思われる。建築の設計図は、当然のことながら、建物を建設するために必要な工事発注のために作成される。だから、それらは、通常公開されることはない。逆に言えば、そこ

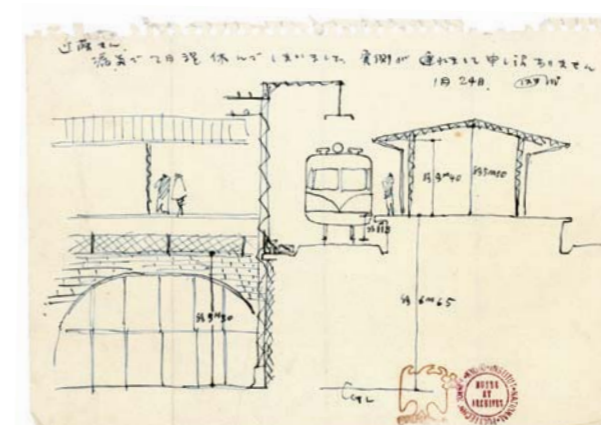
には、建築家が何を調査し、何をテーマとして設計を進めた

のか、完成した建物を設計するにあたって、駅のホームからどう見えるのか、人はどこからこの建物を見るのか、どういうルートで訪れるのか、など、あらゆる角度から建物のデザインを検討したであろう様子が見えてくる。巨匠と呼ばれることも多い村野藤吾だが、彼が実直なまでにこのような指示を出し、その建物が地道なプロセスの積み上げによって生み出されたものであることを今に伝える。ここにも、村野の都市への眼差しを読み取ることができるし、その眼差しから現代の都市を考えることも可能だと思う。図面資料のもつ意味と面白さは尽きることがない。

美術工芸資料館教授 松隈 洋



敷地と有楽町駅の調査メモ、手前の斜線を引いた三角形が敷地（IV-08-E-03）



有楽町駅の高架とプラットフォームの断面実測調査メモ（IV-08-E-02）



## 学生表彰

本学では、学会での受賞など学術研究活動において優秀な成績を収めた学生や、課外活動及び社会活動などで活躍した学生を対象に学生表彰を実施しています。

### 学業成績優秀者

工芸科学部	応用生物学課程	4回生	宮地 真由	工芸科学部	情報工学課程	4回生	小林 美沙枝
工芸科学部	生体分子工学課程	4回生	西垣 早希	工芸科学部	機械システム工学課程	4回生	津田 千嘉
工芸科学部	高分子機能工学課程	4回生	勝田 大士	工芸科学部	デザイン経営工学課程	4回生	柳澤 美帆
工芸科学部	物質工学課程	4回生	安本 勇太	工芸科学部	造形工学課程	4回生	岸田 律也
工芸科学部	電子システム工学課程	4回生	李 勇希				他1名

学術研究活動	対象となった活動
大学院工芸科学研究科博士後期課程 設計工学専攻 3回生 田原 樹	公益財団法人光科学技術振興財団 平成24年度研究表彰 公益財団法人立石科学技術振興財団 平成24年度前期国際交流助成 採用 平成24年度学校法人東京電機大学学術振興基金 丹羽保次郎記念論文賞 受賞 一般社団法人映像情報メディア学会 2012年度優秀研究発表賞 受賞 その他、学術研究活動における活躍
大学院工芸科学研究科博士前期課程 バイオベースマテリアル学専攻1回生 石井 和栄	日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムにおけるJSR13学生発表賞 受賞
大学院工芸科学研究科博士前期課程 バイオベースマテリアル学専攻1回生 波夢 良亮	平成24年度繊維学会秋季研究発表会 若手優秀ポスター賞 受賞

課外活動	対象となった活動
Grandelfino (学生フォーミュラ参戦プロジェクト)	第10回全日本学生フォーミュラ大会 総合優勝
工芸科学部 機械システム工学課程 2回生 篠崎 充	三十三間堂大全国的全国大会 成人男子の部 優勝
工芸科学部 物質工学課程 3回生 久本 駿輔	大阪マラソン2012 10位

※表彰式は、平成25年3月25日卒業証書学位記授与式後に実施。  
※表彰者の学年は当時。

## 第8回入試広報ポスターデザインコンペ受賞者

本学学生を対象に、8月9日、10日に実施するオープンキャンパスのポスターデザインを募集し、多数の応募のうち、以下の4名の方が入賞しました。

最優秀賞	大学院工芸科学研究科博士前期課程 デザイン科学専攻 2回生 金 宝恩
優秀賞	工芸科学部 造形工学課程 4回生 ウォルンエミリー麗
優秀賞	工芸科学部 造形工学課程 4回生 吉川元乃
特別賞	工芸科学部 電子システム工学課程 4回生 中畑拓也

(※賞状の授与は、オープンキャンパス当日に実施。)

今回は31名の方にご応募いただきました。多数のご応募、誠にありがとうございました。

### 作品のコンセプト

ポスターを見た瞬間、京都工芸繊維大学(KIT)のことをたくさん知ってもらうのがコンセプトです。そのためにロゴの色を使い、堅いイメージにならないように専攻の模様を作って3号館と組み合わせました。学校を代表する銀杏の木や五山送り火の「法」の山を背景として入れ、学校の雰囲気を感じてもらえることが出来ます。



「入試広報ポスターデザインコンペ」 最優秀賞

# Topics

## 6/24日 環境をテーマにした公開講演会「緑の地球と共に生きる」を開催しました

環境をテーマにした公開講演会「緑の地球と共に生きる」を開催しました。本学は、ISO14001を学生も含めた全学で認証取得し、環境マインドを持った学生の育成に力を入れるなど、大学をあげて環境問題に取り組んでいます。本講演会は、環境月間活動の一環として環境科学センター主催により毎年開催され、今年で19回目を迎えました。

森迫清貴副学長による開演の挨拶の後、環境科学センター山田悦教授より、「黄砂、PM2.5など中国大陸からの越境汚染について」と題した講演が行われ、PM2.5の説明や、PM2.5と黄砂の関係、京都で行われたモニタリングの結果が紹介されました。山田教授は、「PM2.5は急に注目されるようになったが、これらは新しいものではなく、環境問題だけで

なく気候変動や地球温暖化にも関係しており、中国だけでなくアジア地域全体の課題としてこの問題に取り組む必要がある」という言葉で講演を締めくくられました。

山田教授の講演に続き、立命館大学総合科学技術機構熊谷道夫教授より、「地球温暖化による琵琶湖の深刻な問題」と題した講演が行われました。講演では、温暖化によって湖の循環が弱まることで湖底の無酸素化や水と地殻の間の熱交換への影響などが発生し、湖の生態系に影響が出ていることが、探査艇「淡探(タンタン)」による琵琶湖での調査結果を交えて紹介されました。

本講演会には学外の方も多く聴講に訪れ、講演後には活発な質疑応答が行われるなど、盛況のうちに幕を閉じました。



京都工芸繊維大学環境科学センター  
山田 悦 教授



立命館大学総合科学技術機構  
熊谷 道夫 教授

## 6/14日 京都工芸繊維大学COC懇話会を開催

事務局棟第一会議室にて京都工芸繊維大学COC懇話会を開催しました。本学は、大学の社会貢献・地域貢献の機能を強化するため、京都府・市、及び府内の自治体と連携して、地域課題の解決を図る地域の拠点となる取組としてCOC事業(COC: Center of Community)を推進することとし、今回はそのキックオフとして、京都府・市及び北部5市2町の政策担当者を迎えたCOC懇話会を開催しました。

懇話会には各自治体の政策担当者のほか、内閣官房、舞鶴工業高等専門学校からも参加があり、今後の連携や事業内容についての情報・意見交換会及び、研究室見学などの学内視察を実施しました。また、報道機関からも取材に訪れるなど、関心の高さをうかがわれました。



懇話会の様子

## 6/9日 大学ロボコン2013に本学チームが出場、特別賞を受賞しました

本学のROBOCON挑戦プロジェクトチームは、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「NHK大学ロボコン2013」に出場しました。

予選リーグで二大学(大阪工業大学、北見工業大学)を破り決勝トーナメントに勝ち進んだ本学チームは、初戦で惜しくも敗れてしまいましたが、デザインの良さが評価され、ローム株式会社による特別賞を受賞しました。

今年の競技課題は「THE GREEN PLANET (ザ・グリーンプラネット)」。手動と自動の計2台のロボットを使い、地球が描かれたフィールド上で緑の葉で埋めた後、自作の「苗」を約

4m先の月に向かって飛ばして着地させるという内容です。制限時間3分の間に全ての課題をクリアすることはできませんでしたが、本学らしい着実な試合運びに、観客席からも大きな声援を受けていました。

※「NHK大学ロボコン2013」には、全国から応募があった46チームのうち、事前審査(書類選考・ビデオ選考)を通過した21チームが出場しました。優勝チームは、8月に開催される「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2013ベトナム・ダナン大会」に日本代表として出場します。



予選を突破し、決勝トーナメント進出を決めた本学チーム



特別賞を受賞



本学チームの集合写真

## 5/31日 京都工芸繊維大学創立記念日記念講演会を開催しました

本学設立から64周年となる5月31日、60周年記念館記念ホールにて、京都工芸繊維大学創立記念日記念講演会を開催しました。当日は古山正雄学長の挨拶の後、「社会との絆」「地域とともに」をテーマに、建築造形学部門・中川理教授、先端ファイブロ科学部門・森本一成教授による講演が行われました。

中川教授による講演は、「まちづくりをリードした建築や土木のデザイン-地域とともに歩んだ建築家・デザイナー-」というテーマで行われ、京都のメインストリートである四条通の歴史の紹介や、本学の前身である京都高等工芸学校で教員を

務めた建築家・武田五一の紹介等が行われました。続いて行われた森本教授による講演では、「高齢者や障がい者の潜在能力の発現をアシストする技術-地域とともにこころのコミュニティを形成するために-」というテーマのもと、現在行われている在宅高齢者のこころの支援活動の紹介や、障がい者の社会参加の必要性を訴えるビデオの紹介がありました。

会場には江島前学長や本学OB、企業関係者など100人に迫る来場者があり、京都の歴史の紹介や現代社会の課題を浮き彫りにした貴重な講演に、真剣なまなざしで聞き入っていました。



中川理教授による講演の様子



森本一成教授による講演の様子



講演を聴講する参加者

## 5/17日 建築家・安藤忠雄氏講演会「夢かけて走れ」を開催

世界的に活躍する建築家・安藤忠雄氏の講演会が、本学の創立記念日事業の一環として、松ヶ崎キャンパスで開催しました。

古山正雄学長の挨拶の後、「夢かけて走れ」というテーマで、安藤氏がこれまで設計してきた建築作品について、制作時の思いや制作プロセスを具体的なエピソードをもとに、安藤氏の人生観や現代の若者への提言を交えながら紹介されました。世界的に有名な安藤氏の講演会ということで、会場は人であふれ、立錫の余地のない大盛況をみせたほか、講演会

の様子は本学京丹後キャンパスへも生中継され、松ヶ崎キャンパス・京丹後キャンパスあわせて800名を超える来場者がありました。

安藤氏のユーモアにあふれた講演に来場者は熱心に聞き入り、会場は度々笑いに包まれるなど盛り上がり、最後は惜しめない拍手とともに幕をとじました。講演会の前後には安藤氏のサイン会も行われ、学生を中心とした来場者たちは大変貴重な時間を過ごしました。



安藤氏の講演の様子



開演前から賑わいをみせるセンターホール



サイン会の様子

## 美術工芸資料館にてミュージアムグッズの販売を開始しました

美術工芸資料館では、2013年6月3日(月)より、ミュージアムグッズの販売をはじめました。1902年の京都高等工芸学校開校当初に教材として購入したポスターのなかから、ロートレック、シュレ、クリムトなど 美術工芸資料館の収蔵品を代表するポスターを24枚厳選し、素敵なポストカードにしました。

※ミュージアムグッズの内容など、詳細は美術工芸資料館HP <http://www.museum.kit.ac.jp/main.html> をご確認ください。

## オープンユニバーシティウィーク2013

本学では、7月20日(土)から8月10日(土)の期間を「オープンユニバーシティウィーク2013」とし、無料で参加できる体験実習・模擬授業などのイベントを実施いたします。各イベントの詳細につきましては、大学公式HP <http://www.kit.ac.jp/index.html> をご確認ください。

### 学部

入試種別	募集要項 配付開始	入学試験実施		
		出願受付期間	試験実施日	合格者発表
私費外国人留学生入試	4月上旬	9月4日(水)～9月10日(火)	9月26日(木)	10月10日(木)
AO入試	7月下旬	9月26日(木)～10月3日(木)	第1次選考:11月2日(土)	第1次選考:11月14日(木)
			最終選考:11月30日(土)・12月1日(日)	最終:12月12日(木)
社会人特別入試	7月下旬	9月26日(木)～10月3日(木)	11月30日(土)	12月12日(木)
一般入試	11月上旬	1月27日(月)～2月5日(水)	前期:2月25日(火)・26日(水)	前期:3月7日(金)
			後期:3月12日(水)・13日(木)	後期:3月21日(金)

### 大学院

入試種別	募集要項 配付開始	入学試験実施			備考 ( )内は選抜実施専攻※
		出願受付期間	試験実施日	合格者発表	
博士前期課程	4月下旬	第Ⅱ期 資格認定申請締切 8月8日(木)	9月27日(金)	10月9日(水)	(生、先、バ)
		9月9日(月)～9月13日(金)			
		第Ⅲ期 資格認定申請締切 12月2日(月)	2月7日(金)	2月19日(水)	(電、情、機、 デ経、先、バ)
		1月8日(水)～1月15日(水)			
社会人入試	4月下旬	第Ⅱ期 資格認定申請締切 12月2日(月)	2月7日(金)	2月19日(水)	(全)
外国人入試	4月下旬	資格認定申請締切 12月2日(月)	2月7日(金)・8日(土)	2月19日(水)	(全)
博士後期課程	4月下旬	第Ⅰ期 資格認定申請締切 8月8日(木)	9月27日(金)	10月9日(水)	(全)
		9月9日(月)～9月13日(金)			
		第Ⅱ期 資格認定申請締切 12月2日(月)	2月7日(金)	2月19日(水)	(全)
		1月8日(水)～1月15日(水)			
外国人入試	4月下旬	資格認定申請締切 12月2日(月)	2月7日(金)	2月19日(水)	(全)

※応:応用生物学専攻、生:生体分子工学専攻、高:高分子機能工学専攻、物:物質工学専攻、電:電子システム工学専攻、情:情報工学専攻、機:機械システム工学専攻、  
 デ経:デザイン経営工学専攻、建学:建築学専攻、デ学:デザイン学専攻、先:先端ファイブプロ科学専攻、バ:バイオベースマテリアル学専攻  
 ※新専攻(建学・デ学)の募集要項については、7月上旬より大学公式HPに掲載しております。

### 8月以降の主なイベント

学内・学外を問わず参加いただけるイベント等のご案内です。詳細は、それぞれの問い合わせ先へお気軽にお尋ねください。

開催日	イベント	参加費(有料・無料)	申し込み期限	問い合わせ先	会場
8月9日(金)～ 8月10日(土)	オープンキャンパス2013	無料	無	評価・広報課 TEL:075-724-7016 e-mail:koho@jim.kit.ac.jp	松ヶ崎キャンパス
11月23日(土)～ 11月24日(日)	第43回松ヶ崎祭	無料	無	学生サービス課 Tel:075-724-7147 fax:075-724-7140 e-mail:gakusa@jim.kit.ac.jp	松ヶ崎キャンパス

この他、本学では体験入学などさまざまな催しを企画しています。イベント情報は、大学公式HP <http://www.kit.ac.jp/index.html> からご覧ください。

### 美術工芸 資料館 展覧会

開催期間	展覧会名
平成25年 5月27日(月)～8月10日(土)	文化遺産教育研究センター企画展「京都からアフリカへー大同マルタコレクションにみる1960年代京都の染織産業」 ※最終日には、大同マルタ会会員によるトークショー/ギャラリートークが行われます。
平成25年 9月28日(土)～10月14日(月)	SDLビュー2013

### 出張美術 工芸資料館

開催期間	展覧会名・会場
平成25年8月19日(月)	「ハクランカイからテンランカイーポスターでたどるバリ万博から大阪万博まで」 会場:京丹後市峰山地域公民館
平成25年8月19日(月)～8月20日(火)	「京丹後から世界へーポスターでたどる世界の観光地ー」 会場:京丹後キャンパス

※展覧会の詳細につきましては、大学公式HP <http://www.kit.ac.jp/index.html> をご確認ください。



編集・発行 京都工芸繊維大学広報センター  
 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町  
 TEL (075) 724-7017 FAX (075) 724-7029  
 ホームページ <http://www.kit.ac.jp/>

表紙デザイン: デザイン学部門 中野デザイン研究室 撮影場所: 3号館西側より  
 コンセプト: KIT HOUSE越しの夕暮れです。KIT HOUSEの光と空の色を対比しました。